

第 107 回 全国高校野球選手権岐阜大会

ベスト 8

(独自大会のベスト 4 を除いて 11 年ぶり)

第 107 回全国高校野球選手権岐阜大会において、本校硬式野球部が 11 年ぶりにベスト 8 に進出しました。本大会では初戦から苦しい展開となり、シーソーゲームをものにしました。2 回戦では見事に立て直し勝利します。3 回戦ではシード校相手に一歩も引かず、複数投手の踏ん張り、一年生の流れを変える活躍もあり、僅差のゲームをものにしベスト 8 に進出しました。そして迎えた準々決勝。好投手を複数擁するシード校に、終盤まで素晴らしい戦いを見せてくれました。3 年間の日々が全て詰まった試合であったと思います。野球部創部 125 年の節目を経験した次の代として、大きなプレッシャーもあり、背負うものが大きかった代ですが、大垣北 Jr ベースボールラボの進化、日本野球学会での発表など、常に探究し続けました。その中でも、「心拍数が投球パフォーマンスに与える影響」の研究は最後の夏の投手陣の活躍に繋がりました。

大会中、非常に多くの小学生が応援に駆けつけてくれ、選手にとって大きな力となりました。野球を探究し続け、楽しむことは当たり前、そのプロセスを自身の成長、仲間の成長に結びつけ、そして、社会に集団としての存在意義を示していく。組織として生き残り、進化を遂げていくためには必要不可欠だと思います。高校野球の未来にインパクトを与え、挑戦し続けた彼らを誇りに思います。人生を考える一つのツールである高校野球から学び、今後に大いに生かしていただけることと思います。プロ野球を目指す選手も、その時まで更に進化をし続けます。卒にはまらない、想像を超えていく彼らをこれからも応援し続けたいと思います。

同窓生の方々をはじめ、野球部に関わっていただいているの方々、多大なるご支援、ありがとうございます。引き続き、大垣北高校野球部を宜しくお願い致します。



坪眞都（野球部）がプロ志望届を提出

今夏、エースとして活躍した坪眞都さんが9/2（火）日本高野連にプロ志望届を提出しました。現行の制度が始まってプロ志望届を提出した選手は本校では初となります。本校からのプロ野球への挑戦は究極的な文武両道です。練習試合、大会期間中、多数のスカウトの方々が来校されました。

入学当初は123 km/hだった球速が、2年生では143 km/h、3年生の夏前では149 km/hまで伸びるなど、成長を続けました。また国内最高峰の施設での動作解析や日常でのデータ、数値の活用など、スポーツにおいても探究的なプロセスが重要であることを証明してくれました。本校関係者に加え、ベースボールラボに参加した多くの小学生の期待を背に挑戦します。プロ野球のドラフト会議は10/23（木）です。

